

質疑・一般質問

6月16日、17日、18日の本会議では、22人の議員が登壇し、本市の財政や中学校部活動の地域展開などについて、市の見解を求めました。

発言者と質問項目の一覧は下段に、主な内容は2面から5面に掲載しています。

なお、二次元コードを読み取ると本会議の録画映像をご覧いただけます。



発言者一覧

— 発言順 — () は会派名

- 竹内 きよ子** (明石かがやきネット)
①丸谷市長の目指す明石市の取組 ②高丘小中一貫教育校
③子育て支援のさらなる充実に向けて
- 中村 茂雄** (明石維新の会)
①地方公務員の地域貢献に関する兼業 ②学校における子供の安全を守るための取組
- 千住 啓介** (自由民主党明石・代表質問)
①本市の大型公共工事 ②新ごみ処理施設整備・運営事業
③本市の財政
- 梅田 宏希** (公明党)
①物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の活用
②大久保北部の多面的整備 ③小中学校におけるいじめ対策の体制整備
- 山中 裕司** (市民の会)
①災害時における避難所の生活環境の整備 ②物価高騰による子育て世帯の生活支援
- 寺井 吉広** (明石かがやきネット)
①魚住東部農用地区 ②本市の部活動地域展開
- 正木 克幸** (明石維新の会)
①様々な形での民間のさらなる活用 ②近隣自治体との連携
③適正な職員配置による人材の活用、組織力の強化
- 出雲 有希子** (自由民主党明石)
①明石市立市民病院の今後 ②本市の観光施策
- 尾倉 あき子** (公明党)
①明石港周辺の利活用でにぎわいの創出を ②手話言語のさらなる普及と利用促進 ③高校卒業後の医療的ケアを必要とする方々への切れ目ない支援 ④路上喫煙防止対策
- 山下 祥** (市民の会)
①「海のまち」として市民の命を守る施策 ②「スポーツのまち」としての魅力を向上させる施策
- 宮坂 祐太** (明石かがやきネット)
①介護現場の諸課題
- 高尾 秀彰** (明石維新の会)
①人口減少、少子化問題の今後の取組 ②伝統文化を生かしたまちのにぎわいづくり
- 井藤 圭順** (自由民主党明石)
①就学前施設 ②神戸マラソン
- 河村 和歌子** (公明党)
①気候変動による自然災害の本市の対応 ②本市における不妊治療の支援
- 中川 夏望** (市民の会)
①学校給食の充実 ②国が提示する「保育政策の新たな方向性」 ③財政のさらなる見える化
- 灰野 修平** (自由民主党明石)
①中学校部活動の状況 ②自転車通学中のヘルメット着用義務化 ③災害時の避難所運営
- 黒田 智子** (市民の会)
①こども支援活動への支援 ②学校への太陽光パネル設置
③明石サービスエリアへのスマートインターチェンジ設置
- 上田 雅彦** (市民の会)
①交通弱者の移動手段向上 ②子どもの受動喫煙防止
- 金尾 良信** (市民の会)
①住みなれた地域で安心して暮らせる障害者支援 ②地域で里親家庭を支える体制のさらなる充実 ③住みなれた地域で安全・安心に暮らせる環境づくり
- 辻本 達也** (日本共産党)
①大久保北部の環境保全とスマートインターチェンジの設置 ②明石川のPFAS汚染 ③公共工事の入札
- 中西 礼皇** (対話の会あかし)
①議案第42号 明石市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例制定 ②中学校部活動の地域展開
- 家根谷 敦子** (スマイル会)
①日常生活で課題を抱える高齢者のQOL向上

明石市立市民病院
再整備の方針案まとまる
持続可能な地域医療体制に

問 あり方検討有識者会議の報告を受け、市が考える明石市立市民病院の今後を聞く。

答 本市は今年4月に市

市民病院の再整備に係る基本方針案を作成し、パブリックコメントやワークショップを実施した。市民の意見を踏まえて取りまとめた基本方針案は、再整備が不可欠であること、地域の中核病院として救急・急性期医療の機能を強化し、治す医療を担うこと、再整備は移転新築とし、県立がんセ



移転新築を県と協議 (市民病院)

ンターの建て替え後の跡地を候補地として県と協議を進めることの3つの方向性を示して

いる。再整備は多額の費用が見込まれるため、効率的な病院運営が可能な診療機能や適正な病床規模を設定する必要がある。限られた財源の中で持続可能な病院運営により地域医療提供体制を維持するため過剰な投資とならないよう進めていきたい。

高丘小中一貫教育校の状況と展望
魅力ある教育の充実に向け取り組み

問 開校5年目を迎えた高丘小中一貫教育校の現在の取り組み状況と今後の展望は。

答 同校は小中3校の併設型で一貫教育を進め

中学校部活動

地域展開に向け

本市の方針は

問 中学校部活動の地域展開に関する現状認識と進捗よく状況を聞く。

答 本市の部活動の地域展開は、子どもたちの自主的な気持ちを大切にする、地域の人と共

に支える、教員のやりがいと尊重しつつ働き方改革を進めるという3つの考えを柱としている。昨年度は、休日部活動の地域展開として剣道のモデル事業を実施し、課題を洗い出すとともに、子どもや保護者、教員にアンケート調査を実施した。県下では地域展開のスケジュールを公表した

自治体が増えているが本市はまだ公表していないため不安を感じる子どもや保護者、指導者がいることは認識している。今後は、あり方検討委員会で引き続き協議を重ね丁寧に進めながらもスピードを上げ、今年度中にはスケジュールを公表できるように取り組んでいく。

自転車通学の安全
ヘルメットの着用が課題
啓発活動の強化を

問 自転車通学者のヘルメット着用の義務化について市の考えは。

答 令和5年4月から全

商業高等学校は約85%の生徒が自転車通学であり、自転車保険の加入を許可条件としているが、ヘルメットの着用は条件としておらず着用者は少ない。生徒へは、入学時に自転車通学の諸注意として、ヘルメットの着用を促しており、校内に啓発ポスターを掲示している。今年6月には、明石警察署と市がヘルメット着用の呼びかけを行い、年1回実施する自転車交通安全教室では、事故の恐ろしさや着用の重要性を



自分の身を守るためヘルメット着用を

周知している。ヘルメットの着用は、生徒の安全を守ることにつながるため、着用の啓発活動を強化するとともに、県立高等学校の動向も含め、調査研究していく。

将来を見据えた

就学前施設の

在り方を検討

問 待機児童対策や、少子化を踏まえた老朽化の進む就学前施設の今後について、市の見解を聞く。

答 今年4月時点の待機児童数は56人であり、今年度は主に小規模保育事業所の整備による7施設133人分の受入枠拡充を目指す。今後は公立幼稚園の3歳児枠の拡充など、地域や保育ニーズの状況に

合わせた対応を行うとともに、将来的な需給バランスを考慮しながら対策を進めていく。公立の就学前施設は、小規模保育事業所の卒園児や医療的ケア児などの受け入れの観点からも需要は高く、子どもたちが安心して過ごせるようトイレ改修等を計画的に実施している。長期的には、こども誰でも通園制度の活用や定員など市全体の需給バランスを考えながら、公立の役割も勘案した上で将来を見据えた就学前施設の在り方を検討していきたい。